

甲斐市議会厚生環境常任委員会会議録

1. 開催日時 平成25年7月16日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（7名）

委員長	三浦進吾君	副委員長	小澤重則君
	山本今朝雄君		長谷部集君
	池神哲子君		保坂芳子君
	樋泉明広君		

欠席委員（なし）

傍聴議員（7名）

藤原正夫君	米山昇君
八代静枝君	清水正二君
名取國士君	藤田悟君
斉藤芳夫君	

説明のため出席した者の職氏名

市民部長	土肥冷子君	福祉健康部長	笹本嘉朝君
保険課長	安藤佳俊君	長寿推進課長	三澤宏君
国民健康保険 係長	金子智奈美君	長寿あんしん 係長	土屋達巳君

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	中村宗和	書記	小澤明
書記	石原大助		

審査内容

1 平成25年度甲斐市国民健康保険税の本算定について（保険課）

2 その他

開会 午後 1時27分

○委員長（三浦進吾君） ただいまの出席委員は7名です。定足数に達しておりますので、これより厚生環境常任委員会を開会いたします。

本日の会議を開きます。

本日の委員会は、担当より次第にあります事項について説明、報告等を受けたいと思います。

○委員長（三浦進吾君） 最初に、（1）平成25年度甲斐市国民健康保険税の本算定について、担当より説明をお願いします。

安藤保険課長。

○保険課長（安藤佳俊君） では、国民健康保険税の本算定についてご説明いたします。

資料の1ページをお願いいたします。

表1、国民健康保険税率とありますけれども、これは前年度からと同じ据え置きとなっております。

次の2の表が、この税率で算定いたしました平成25年度の国民健康保険税額の見込みであります。一般被保険者と退職被保険者に分かれておりますが、それを合計したものが一番下の太字の欄、本算定合計の欄であります。調定額につきましては20億5,541万円、これは昨年度とほぼ同額の調定額であります。収入見込み額につきましては収納率89.5%の見込みを掛けまして、18億3,968万6,000円となりました。この収納見込み額は当初予算よりも3,000万円ほど多い額となりまして、本年度国保会計に必要な収入が確保できるものと考えております。

なお、今後の医療費の伸びや国・県の補助金等の動向に注意して運営していきたいと考えております。

なお、その下の参考の欄がありますけれども、世帯数につきましては、本算定時におきまして1万1,555世帯、被保険者数が2万511人となり、前年度よりも若干被保険者数が減っております。

次の調定額の状況であります。1人当たり調定額は10万210円、1世帯当たり調定額が17万7,881円、ほぼ昨年と同じです。1人当たり調定額につきましては前年度よりも240円上がりました。

次の保険税の軽減状況でありますけれども、低所得者に対しまして保険税の軽減を行っているわけですが、医療保険分と後期高齢者支援金分で4,976世帯が該当となりました。介護保険分につきましては2,306世帯であります。いずれも前年度よりも増加しております。軽減額の合計につきましても、2億5,508万3,914円ということで、前年よりも6.7%の増加であります。

次の国民健康保険税の限度額超過の表ですけれども、所得が多い場合でも、ある一定額以上は課税されないという限度額でありますけれども、医療保険分の課税限度額は51万円、後期高齢者支援分につきましては14万円、介護保険分は12万円と、これも昨年と同額であります。今回限度額を超えた世帯数は医療保険分が244世帯、後期高齢者支援金分が223世帯、介護保険分が175世帯となっております。限度額超過額の合計につきましては1億6,703万7,770円となりまして、前年度よりも13.9%の減少であります。

以上であります。

○委員長（三浦進吾君） 説明が終わりました。

質疑等がありましたらお願いいたします。

山本委員。

○委員（山本今朝雄君） すみませんね、ちょっと1点教えていただけますか。今年度の収入見込みが何か3,000万ぐらい昨年よりか多いということです。何かその3,000万の根拠とございますか、わかりましたら教えてください。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 調定額につきましては、先ほど申しましたとおり、ほぼ同額でありますけれども、収納率におきまして23年度よりも24年度伸びておりまして、また本年度も収納見込み額としまして目標が89.5%を目標としております。昨年度の本算定時の収納率として87.75%見込んでいたわけですが、その時点よりも2%弱の増加を見込んでいるということで、収納率アップに向けた取り組みが、今回の収入見込み額の増加に結びついてるものと考えております。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

○委員（山本今朝雄君） はい。

○委員長（三浦進吾君） ほかにございますか。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 表の一番下のほうで、国民健康保険税の限度額超過というところですが、けれども、後期高齢者支援金分が223世帯になっていますけれども、これは多くなっているんですか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 15世帯の増であります。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

○委員（池神哲子君） はい。

○委員（山本今朝雄君） すみません、もう1点教えていただけますか。

○委員長（三浦進吾君） 山本委員。

○委員（山本今朝雄君） 参考で世帯数・被保険者数状況とありますね。それで、24年度、25年度の比較で世帯数はふえていますけれども、この被保険者数が減っているということは、これはどんな原因なんですか。その理由と伺いますか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 世帯数につきまして103世帯の増、被保険者数が逆に124人減となっております。1人世帯がふえていることにおきまして被保険者数が減というような状況であります。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

○委員（山本今朝雄君） はい。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 参考のほうの国民健康保険税の軽減のところで6.7%の増だというお話がありましたが、その中身をもうちょっと詳しく教えてもらっていいですか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 全体的に限度額超過額も減っていると。また軽減額は逆にふえています。全体的な被保険者の所得の低い方がふえているというような状況であります。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） その所得の低い人がふえているということですが、それは高齢者のほうがふえているのでしょうか。それとも若い人のほうが、年齢的なものというのはどう、そういうものはわかりますか。年齢構成みたいなものが。大まかでいいんですが、細かい数字はいいんですけれども、傾向だけでもわかれば教えてもらえればと。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 年齢別の状況はちょっと把握しておりませんが、全体的に昨年と同じ税率及び限度額超過あるいは軽減世帯の率、条件ですね。ほぼ同じですので、低所得者数についての数がふえて、また超過限度過ぎている方、現役並みな所得の方はまた減っているというような状況が見えると思います。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 後で結構なんですけど、そういった統計をとっているかと思うので、低所得の方の層の内容が、後で結構です。わかりますか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 年齢別なものは統計をとっておりませんが、軽減世帯の割合としましてご説明したいと思います。7割軽減世帯におきましては、医療費分と後期高齢者支援分で2,929世帯、介護分が1,285世帯、人数にしまして4,231人が医療及び後期高齢者支援分。介護分としまして1,443人。5割軽減世帯につきまして602世帯が医療費分と後期高齢者支援分、介護分としまして322世帯。5割軽減の人数としまして医療保険と後期高齢者分が1,522人、介護分が450人。2割軽減につきましては、医療及び後期高齢者分が1,445世帯、介護分が699世帯。人数につきましては医療、後期高齢者分が2,740人、介護分が891人ということで、全体では7割、5割、2割世帯、それぞれ前年よりも増加している状況です。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 特に今お聞きした中では、7割軽減というのがすごい数だなと思っているんですが、この傾向というのはどうなんだろうかな。去年とかおととしとかずっと比べてみて、やっぱりずっと上がってきているのでしょうか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 軽減世帯につきましては、20年度合計が35%の構成比でありました。21年度が36.8%、22年度が41.1%、23年度が40.4%、24年度が40.7%という結果になりました。これは本算定時でありますけれども、順次ふえている。23年度若干減っているときもありますけれども、おおむねの傾向として増加傾向であります。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 軽減世帯というんですか、軽減世帯の全体、それとも……

○保険課長（安藤佳俊君） 軽減世帯の全体、7割もありますけれども。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 7割軽減世帯につきましては、20年度で20.7%、21年度で21.7%、22年度で24.4%、23年度で24.3%、24年度が同じく24.3%。やはり少しずつ増加している状況です。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 今後やっぱりこれは対策が必要かと思うんですが、何か考えはありますか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） この軽減世帯制度につきましては、所得の少ない方を救うための制度でありまして、その分、この方たちが減る分は、ほかの方に軽減されない分の方が実際には負担がふえるというようなことも考えられますけれども、今のところ甲斐市の国保におきましては、これだけの軽減世帯がいても、前年と同じ税率で国保税が確保できるような状況にありますので、軽減できる方については軽減してあげるといことで、国保税も納めやすくなる。また、軽減している皆さんも国保に入って、それだけの恩恵が受けられるという、今のところは制度としてはうまく動いているのではないかなと考えております。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） そういう答えしかないかなと思いますけれども、やはりちまたでどうか、もう本当に国保高い。所得のある場合でしょうけれども、とにかく高いよねというのが、見ていると本当にぎりぎりやって、何とか抑えているという感じで、これ以上ふえる

とまた保険が上がっていくという、この制度を使っているとそうなんですけれども、何かやっぱり突破口じゃないと、何かもう本当にえらいという声がすごく聞くんですよね。ですから、これで払ってもらっているからいいと、収納率もアップしているからいいというだけでは何かちょっといいのかなと。要するに私は市民の立場で言っているわけなんですけれども、その辺の考え、もう1回だけ聞いていいですかね。すみません。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 毎年国保制度の運営につきましては、抜本的な改革が必要ではないかと県の市長会通して国に要請しているところでありますけれども、国のほうでは、またこの間も広域化、まずは県単位での国保運営を目標にしていきたいというような意見がありまして、今現状どおりと半々の賛成率だったようですけれども、一応そのような広域化も検討されているところでありまして、甲斐市としても、このまま同じ制度ではいつかは国保会計が運営していけなくなるのではないかなということに危機感がありまして、国のほうにも要請しておりますし、またよりよい制度改正を望んでいるところであります。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） ほかにございますか。

樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） じゃ、参考に、そういう厳しい状況にあるということですので、滞納世帯ですね。6月1日現在でどのくらいになっていますか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

○保険課長（安藤佳俊君） 6月末現在で、全世帯数1万1,501世帯に対しまして1,413世帯、割合でいまして12.3%が滞納世帯となっております。

○委員長（三浦進吾君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 短期保険証と資格証明書の発行数について参考に聞かせてください。

○委員長（三浦進吾君） 安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） これも6月末現在で、短期保険証を発行している世帯が685、資格証明書を発行しております世帯が32世帯ございます。

○委員長（三浦進吾君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 昨年と比較すると大分滞納も減っているし、短期保険証も減っている。これは保険課長を先頭に頑張っているんじゃないかと思うんですが、この減少というか、効

果というか、結果についてはどんなふうな対応をされてきたのか、参考にお聞きしたいと思います。

○委員長（三浦進吾君） 安藤課長。

○保険課長（安藤佳俊君） 20年に収納課が発足しまして、21年度から国保税過年度分を担当しております。また、24年度からは国保税全般現年度分についても収納課で収納するというような体制をとりまして、今まで国保担当ではやはりそれだけ収納ばかりに力が注げなかったわけなんですけれども、それを収納課のほうで収納いたして、一生懸命頑張った成果が出ているのではないかなと考えております。

○委員（樋泉明広君） いいですよ。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔発言する者なし〕

○委員長（三浦進吾君） なければ、委員の質疑を終わります。

続いて、傍聴議員の質疑を受けます。

ございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（三浦進吾君） なければ、傍聴議員の質疑を終了いたします。

以上で平成25年度甲斐市国民健康保険税の本算定についてを終了いたします。

次に、保険課関係で委員より特にお聞きしたいことがありましたらお願いします。

〔発言する者なし〕

○委員長（三浦進吾君） ないようですので、以上で保険課関係、その他を終了いたします。

ここで暫時休憩とし、職員の入れかえを行います。

休憩 午後 1時50分

再開 午後 1時51分

○委員長（三浦進吾君） 会議を再開します。

次に、（2）その他に入ります。

長寿推進課より報告がありますので、説明を受けたいと思います。

三澤長寿推進課課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） こんにちは。長寿推進課より敬老福祉大会の日程等につきましてご報告をさせていただきます。

本年度第9回目となります甲斐市敬老福祉大会につきましては、10月12日、土曜日に昨年度と同様に敷島体育館にて開催いたします。

大会の内容につきましては、9月に開催します敬老福祉大会実行委員会で催し物、演芸等の内容を最終的に決定していただきますが、昨年以上に楽しい大会となるよう準備を進めております。

また、現在のところ竜王中学校、玉幡保育園、松島保育園、文化協会、演芸ボランティア等の催しを予定しており、参加者につきましては、自治会や老人クラブを通じて参加者を取りまとめているところであります。

なお、敬老福祉大会も来年で10回を迎え、平成27年度からの敬老福祉大会につきましては、参加者数の伸び悩み等の理由から、大会のあり方について、見直しを含め検討してまいりたいと考えております。厚生環境常任委員会のご意見等を伺いながら、敬老福祉大会実行委員会の中で協議していく予定でありますので、厚生環境常任委員の皆様のご指導、ご協力等をよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） 報告が終わりました。

質疑等がありましたらお願いいたします。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 10回目で伸び悩みというふうにおっしゃられたんですけれども、これを協議していくということですが、参加者が少なくなっているということですか。

○委員長（三浦進吾君） 当局の答弁を求めます。

三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） 今現在、昨年度の実績が1,359人でありまして、23年度が1,318人、22年度が1,392人となっております。今現在65歳以上の高齢者数は1万5,300人は超えております。1割に満たないような状況でありまして、これが介護保険の特別会計の中の事業として捉えておりますので、そういう観点からも、やはり参加者数をもう少しふやそうなことでいろいろ検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

ほかにありますか。

保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 今1万5,300人いるのにとおっしゃいましたけれども、あその例え
ば敷島総合体育館、許容というか、何人まで入れるというあれでいらっしゃるんですかね。

○委員長（三浦進吾君） 三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） 今現在におきましても1,500人弱毎年参加していただいでい
るわけなんですけれども、やはり高齢の方たちは椅子等の要望がありまして、ただし、椅子
を全員の分を置きますと、本当にスペースがなくなってしまいますので、今限られた椅子席
にしておりますので、これ以上ふえた場合には、場所をどこか市外のところに持っていかな
ければならないというようなことでございます。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） 保坂委員。

○委員（保坂芳子君） 例えばどこですか。

○委員長（三浦進吾君） 答弁を求めます。

三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） もちろんちょっと方向性が決まっておりますけれども、う
ちのほうでちょっとアンケート調査を行いまして、各自治会でも敬老の事業なども調査して
おりますので、その辺と、あとどのような方向にするか、また議員の皆様からもご意見等い
ただく中で、いろいろな形で考えてまいりたいと思います。

○委員長（三浦進吾君） ほかにございますか。

樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 先ほど、従来よりも楽しいものにしていこうということではありまし
たけれども、どんなふうな楽しいもの、いわゆる企画を考えているのか。具体的には何か考
えているのでしょうか。

○委員長（三浦進吾君） 三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） 一応今年度の今の状況としましては、竜王中学校の吹奏楽部、
玉幡保育園、松島保育園の、これはちょっと今内容的にはわかりませんが、何かそう
いった催しをやっていただけると。あと文化協会からも2つか3つ、あと演芸ボランティア
等を予定しております、またいろいろ何か趣向を少し取り入れたりして、喜んでいただけ

るものとしたと考えております。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） 先ほどアンケートと言いましたけれども、このアンケートの各、いわゆる老人クラブ、長寿会等にアンケートをとったりということはしているのでしょうか。どんな催しをしてもらいたいとか、それから、あと会場について先ほど言いましたよね。そのほかにいろいろと工夫してやらなければならないような、そういった下からの意見というのも大事だと思うんですけども、それについては行っているのでしょうかね。

○委員長（三浦進吾君） 三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） 大会が終わりました、ボランティアの方とか自治会の関係者、また民生委員さんを初めとして、協力員さんのほうからもいろいろなご意見とかいただいておりますので、そういったものをやはり参考に、先ほど申したみたいに、各自治会の状況等、そういうものを踏まえて、今後の方針等を考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） その内容については厚生常任委員会に提出されておりましたか。この委員会でもこういったアンケートの結果はこうですよという。

○委員長（三浦進吾君） 三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） 今まではアンケートのご意見等につきましては報告等はしておりませんが、今回見直しを考えていくということでありますので、アンケートの結果とか、また各自治会の状況等を報告させていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（三浦進吾君） 樋泉委員。

○委員（樋泉明広君） アンケートの中身ですね。そういったものを委員会へも提示してもらったり、できたら各長寿会、老人クラブへのどのくらいを対象に出したかというのを、具体的に少し提示できたらお願いしたいなと思っておりますけれども。

○委員長（三浦進吾君） 三澤課長。

○長寿推進課長（三澤 宏君） アンケートの内容等、次回、またその次に報告させていただきたいと思っています。

○委員長（三浦進吾君） よろしいですか。

池神委員。

○委員（池神哲子君） 今、楽しいものという話ですけれども、結構楽しいものになっているなど私は思っているんですけれども、やはりこれ続けてもらいたいなと思っています。それで、私たちの自治会でもバスを出してくれて、皆で参加しようというのは、恒例としては楽しくして、皆さんとあそこでお食事をしたり、いろいろな若い方たちのいろいろなものを見たりするということは、いろいろな触れ合いになっていくので、すごく喜んでます。確かに1割かもしれませんけれども、やっぱりこのぐらいでいいのかなと思ったりするし、すごくよくやってくださっていて、とてもよかったと思っていますので、続けてほしいと思っています。

○委員長（三浦進吾君） ほかにございますか。

[発言する者なし]

○委員長（三浦進吾君） なければ、委員の質疑を終了いたします。

続いて、傍聴議員の質疑を許します。

ございますか。

[発言する者なし]

○委員長（三浦進吾君） なければ、傍聴議員の質疑を終了いたします。

次に、長寿推進課関係で委員より特にお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

何かございますか。

[発言する者なし]

○委員長（三浦進吾君） ないようですので、以上で長寿推進課関係その他を終了いたします。

次に、議題の4、その他に入ります。

当局から、その他の報告がありましたらお願いいたします。

事務局、小澤係長。

○書記（小澤 明君） 既にご案内しましたとおり、あさってになります18日の木曜日、1時半から総務教育常任委員会におきまして、防災の心構えについてという内容で、県の防災危機管理課をお願いをしまして研修を行います。委員以外の議員の皆様についてもご参加いただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。

なお、総務教育常任委員会はその日の午前10時半から行いますので、あわせてご連絡させていただきます。よろしくお願ひします。

以上でございます。

○委員長（三浦進吾君） 委員より特にお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（三浦進吾君） 以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして厚生環境常任委員会を閉会いたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時03分